

北斗句会（令和4年2月）選句

宮下ひかる 選

特選

NO, 33 : 子らの声寒風のりて響きくる
我が家にて元気な子を実感し嬉しく楽しい。

選

NO, 5 : 雪降るや遊行の道へ又一步
四国一周行脚を思い起こした。
NO, 14 : 手を引きて母子揃いの冬帽子
日々漫歩中によく見かけ微笑ましい。
NO, 22 : オホーツクの紅鮭群れる蝦夷の川
嘗てのオホーツクを振り返り。
NO, 23 : 初雪の積むや望郷しきりなる
偶の雪に望郷しきり同感。

竹内雲泉選

特選

NO. 08 ひと列車遅らせ湖の鳩とみる
鳩は、不思議な魅力のある鳥です。ひと列車やり過ぎても眺めていたとの「鳩」の表現、作句者の気持ち良く分かり素晴らしい句と感心しました。

選

NO. 10 独りみに鍵盤なぞる雪明り
夕闇の中、失恋した若い娘がひとりピアノに向かって・・・、寂し気な様子。いやいや、高齢者の句会の句ですから・・・。気持ちの良く分かる句です。
NO. 18 父母の墓の無沙汰や悴めり
父・母の墓参も疎かにしている「ばか息子」と作句者は自分を責めていると解釈しました。
NO. 21 限りなく降る雪肩に伍長像
この伍長像は、八甲田山中の後藤伍長の像？降雪期にここへ行った人は9師団勤務の経験のある方と思いますが・・・。私は夏の像しか知りません。
NO. 27 蒼天に締め寒柝響きけり
ひとまわり夜回りをして最後の拍子木の音の響きに感動。これを素直に詠まれたのに感心。句を読んで私もすがすがしい気持ちになりました。

藤田紀潮選

特選

NO. 6 道をうつ鉄鎖の音や雪の朝

雪の日の朝、タイヤチェーンが路面を打つ音を主役に仕立てた佳句。
「鉄鎖の音」が秀逸かつリアリテにイ富む措辞。

選

NO. 5 雪降るや遊行の道へ又一步

雪降る日、「余生を遊行の道」と喝破し凜たる気概で立ち向かう作者。

NO. 8 ひと列車遅らせ湖の鳩とみる

句集「北斗」に「にほどりに知られてをりぬ氏素性」の銘句がある。あの鳩は今どこに。

NO. 17 救急車来る大寒の胸騒ぎ

おりしも大寒、救急車出番は増加。もしかしてあの方か、明日は我が身かも。

NO. 21 限りなく降る雪肩に伍長像

八甲田行軍遭難記念碑の後藤伍長像の雪の日の景。NO. 32の「幸畑」は伍長の出身地で資料館などもあるとか。

吉岡誠山選

特選

NO. 21 限りなく降る雪肩に伍長像

八甲田山の雪中行軍を思い出し、伍長像には自然に頭が下がる。
よくぞ俳句に読んでくれた思いがする。

選

NO、4 一身に余光引き寄す雪の富士

余光引き寄すとはよく言ったもので、富士の力の源泉を表している。

NO, 16 麦踏をひさびさに見る坪畑

小さな坪畑でも麦踏は必要だよと、物を作るときの心構えを述べて

NO, 20 ひと筋の夕飛映ゆるや冬の池

小さな冬の池にも、夕日がひと筋映えているんだよと何事にも機会のあることを教えている。

NO、33 子らの声寒風のりて響きくる

子らわ元気で問題はないと言い切ったのが良い。

田中資凡選

特選

NO. 08 ひと列車遅らせ湖の鳩とみる

湖に浮かぶ鳩と一時を過ごそうと、ひと列車を遅らせというのだ、作者の心のゆとりと俳人の様が伺え共感を覚える。

選

NO. 04 一身に余光引き寄す雪の富士

雪の富士山の遠景に、富士山が一身に余光引き寄せているというのだ。叙景句として素晴らしい。

NO. 23 初雪の積むや望郷しきりなり

初積雪に措辞の望郷しきりに共感する。

NO. 27 蒼天に締め寒柝響きけり

冬の寒空に寒柝の響く様が心に滲みる思いがする句だ。

NO. 32 幸畑の墓石に雪の帽子かな

幸畑の墓石に雪が積もっている様を、雪の帽子と表現しているのに共感。

森田光彦選

特選

NO. 3 1 立春の朝日をあぶる鬼の面

前日は家族で節分の行事、子供達の明るい声が聞こえていたが、仕舞忘れたのか、鬼の面に朝日が当たっている、子供達はまだ寝ている。幸せな春の訪れが、見事に詠まれています。

選

NO. 4 一身に余光引き寄す雪の富士

季節は違うかもしれませんが北斎の赤富士を思い出しました。擬人化が成功しているように思います。「余光引き寄す」がいいですね。

NO. 6 道をうつ鉄鎖の音や雪の朝

青森で3年生活しましたので、状況はよくわかります。

NO. 8 ひと列車遅らせ湖の鳩とみる

琵琶湖は古くは「鳩の海」と呼ばれていたという。ひと列車遅らせてまで、鳩といたいという、作者の感慨が伝わってくるようです。

NO. 1 4 手を引きて母子揃いの冬帽子

母子の一体感と暖かさが伝わってきます。

山縣秀雄選

特選

- No. 7 雪まとひほつこり貌の地藏さま
中七の表現が素晴らしく作者の優しさが滲み出ている。

「選」

- No. 4 一身に余光引き寄す雪の富士
中七が効いており、富士山の雄大さを表現している。
- No. 5 雪降るや遊行の道へ又一步
中七に作者の強い意思が表現され、下五が効いている。
- No. 14 手を引きて母子揃いの冬帽子
季語と中七の母子揃いのマッチングが良くて微笑ましい。
- No. 27 蒼天に締め寒柝響きけり
中七が冬の夜間「火の用心」パトロールの状況を良く表現している。

大森康正選

特選

- NO. 30 ふんわりと芽につれなくも春の雪
季節の変わり目、自然の移ろいには、新旧の交叉が見られる。春を待ち望む芽に降り積もる雪。「つれなくも」が良い。

選

- NO. 21 限りなく降る雪肩に五長像
下五に至り、八甲田山の雪中行軍のストーリーが、俄に脳裏に蘇る。固有名詞の位置並びに知名度が効いている。
- NO. 24 冬萌えや朝の検温気がかりに
年齢相応の健康を維持している作者、とは言え後期高齢者であり、時節がら習慣にしている検温が気になっている。リアリティーあり。
- NO. 31 立春の朝日をあぶる鬼の面
前夜、節分で被った鬼の面、面の状況の説明は無く、想像が膨らむ。諧味あり。
- NO. 36 群青の薄らぐ磯や和布萌ゆ
海の色が冬から春に替わり、豊かな和布の群れが揺れている光景。春到来の開放感が感じられる。

長池豆陽選

特選

No.26 寂聴の逝きて終わらぬ冬銀河

敬虔な寂聴への追悼句。逝去されて3カ月も過ぎるのにメディアを賑わしている高い存在。死者の魂の集まりともいわれる冬銀河の季語が効果的。

選

No.6 道をうつ鉄鎖の音や雪の朝

景が見える、生活の実体験句。降雪は予報されても直接視認するまで確信できない。だが、目覚めて聞こえる車のチェーンの走行音は視認と同じ。

No.17 救急車来る大寒の胸騒ぎ

どんな時でも近所の救急車には緊張を覚える。ましてコロナ禍、しかも大寒となれば他人事とは思えない。大寒を破調の中五にした臨場感、技法巧み。

No.24 冬萌えや朝の検温気がかりに

毎朝検温をする人が多いこの頃。冬萌えの季語が面白い。コロナ禍はもう終わるだろうの期待感と、春なのにまだ籠城が続く嘆きの二とおりの諧味。

No.29 日向ぼこ二十歳の孫と何話そ

諧味十分。高齢者は流行の変化の速さについていけず、何より価値観の変化に戸惑う。孫との会話の難しさも代表例。日向ぼこの楽しさは不変なのに。

大崎石州選

特選

NO, 6 道をうつ鉄鎖の音や雪の朝

冷え切った早朝、タイヤチェーンが道を打つ音、情景から音が聴こえてくる。

選

NO, 4 一身に余光引き寄す雪の富士

冠雪した富士山にあたる光、雄大さと荘厳さの情景が句から浮かんでくる。

NO, 17 救急車来る大寒の胸騒ぎ

近所に救急車が来たのだろうか・・・、緊張感があって良い。

NO, 30 ふんわりと芽につれなくも春の雪

情景が見え、描写が良い。中七の「つれなくも」が効いている。

NO, 34 マスク深々心無きすれ違ひ

現代の世相を反映しており、破調が効いている。